

整備局の技術向上プログラム

若手職員が舗装知識習得

NIPPPO 施工現場を見学

四国地方整備局は9月30日、徳島県鳴門市のコンクリート舗装工事で若手職員を対象とした現場見学会を開いた。写真。同局道路部が実施する「技術向上プログラム」の一環となる。施工中の現場を見ることが技術力向上や技術伝承につながる。当日は徳島河川国道事務所や土佐国道事務所などから24人が参加したほか、ウェブを使って154人が視聴した。



工事名は「令和7年度国道11号鳴門地区コンクリート舗装外工事」。NIPPPOが施工している。同局道路部道路工事課の小原和彦課長補佐のあいさつに続き、座学の講師として徳島国道出張所の東條真吾所長がアスファルト舗装とコンクリート舗装の違いや特徴などの基礎知識を講義した。続いてNIPPPOの門田幸介監理技術者が、連続鉄筋コンクリート舗装の特性と施工手順の一連の流れについて動画を交えながら解説した。

また、遠藤政昭技術グループ課長は、環境改善などを目的

として中間層で採用した中温化アスファルトの概要を紹介した。

現場に移動した一行は、スリップフォームペーバによるコンクリート敷き均し・平たん仕上げからマット養生までの作業を見学した。参加者からは「最近スリップフォーム工法の採用が多いが、機械の調達に問題はないか」「現場の縦断勾配では施工において支障はないか」といった質問が出た。

同工事は、老朽化した既設アスファルト舗装を撤去し、耐久性に優れる連続鉄筋コンクリート舗装に改修する。延長は165㍎。敷き均しや締め固め、平たん仕上げを1台で行うことができ、ICT施工を活用できるスリップフォーム工法を採用したことで生産性や施工精度、安全性が飛躍的に向上し、働き方改革に貢献する。